

## 研究協力のお願

昭和大学病院では、下記の臨床研究を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へご連絡ください。

1. 課題名			
胸腔鏡下食道亜全摘術における胸腔ドレーン管理			
2. 研究責任者	所属	職名	氏名
	医学部外科学講座消化器・一般外科部門	助教	山下 剛史
3. 研究の概要・計画			
<p>研究背景：教室では胸腔鏡・腹腔鏡併用食道亜全摘術（VATS-E）を1996年に導入し、現在まで標準術式として行っている。体位は左側臥位、頭側1モニタ法とし、2010年より気胸併用にて行っている。再建は亜全胃管による胸骨後ルートでの頸部食道胃管吻合を基本としている。術後管理では、手術当日抜管、術後第1病日からの歩行訓練、Incentive Spirometryを用いた呼吸訓練を開始としている。食道癌手術において、胸腔ドレーンはリンパ節郭清後の滲出液などを体外に排出し、肺の虚脱を予防するために留置されるが、ドレーン刺入部痛は離床、呼吸訓練の妨げになりうる。われわれは、この疼痛対策が肺炎などの呼吸器合併症を軽減させられると考え、現在までに胸腔ドレーンの細径化を図ってきた。胸腔ドレーンは24Frのプラスチックドレーンから、19Frシリコンドレーンと変更し、その後15Frとしてきた。現在は10Frとしている。本法は、他施設では見られず、教室独自の方法である。教室における胸腔ドレーン管理において、後方視的に手術合併症との関連を比較検討し、ドレーン細径化の効果につき検討する。</p> <p>調査対象期間： 1996年1月1日から2019年1月31日まで</p> <p>調査対象情報： 上記期間に教室にて施行した食道癌手術症例データ</p> <p>調査項目： 経過記録、血液検査（白血球数、ヘモグロビン値、アルブミン値、CRPなど）、X線検査、CT検査、内視鏡検査、手術関連記録（麻酔記録、手術記録）、呼吸機能検査などの生理機能検査の診療録内容等</p>			
4. 研究実施期間			
倫理審査承認後に実施医療機関の長の実施許可を得た後～2021年3月31日			
5. 問い合わせ先			
所属：昭和大学 消化器・一般外科		職名： 助教	氏名： 山下 剛史
住所：142-8666 東京都品川区旗の台1-5-8			
電話番号： 03-3784-8000			

なお、個人情報の保護のため、診療情報はすべて個人を識別できる情報（氏名、住所、生年月日、電話番号など）を削除し独自の記号を付して取り扱い、研究成果を学会や論文で発表する際も個人情報を出すことはありません。